

区長就任1年を振り返って

千代田区長 樋口 高顕様

卓話者紹介 高山 肇会員

昭和57年8月生まれ、39才。京都大学法学部ご卒業後、民間企業に勤務。2017年、東京都議会議員選挙（千代田区）で当選されました。3年半お勤めの後、昨年1月の千代田区長選で当選され、大変な時期に千代田区のリーダーとして精力的に活躍されています。

私が千代田区長選への立候補を決意した最大の理由は、新型コロナウイルス感染症という未曾有の困難に見舞われ、極めて厳しい状態が続く中、コロナ禍での不安や区政の停滞を憂う多くの方々の声を受け、強い危機感を感じたからです。新型コロナから区民の命と健康を守ることを最優先に対策を進める中で、当たり前の暮らしが様変わりし、区内を歩くたびに想像を超える疲弊を感じました。都議時代も医療体制の強化、暮らしと経済の支援など、新型コロナ緊急対策を提言・実現していましたが、東京都からの支援が区民の皆さまへしっかりと行き渡るには、都と区との連携がこれまで以上に重要だということを感じました。

就任後の2月から、コロナに打ち克ち、6万7000人の区民の命を守るために、コロナ対策に全力で取り組むため、施策の早期着手に取りかかりました。まずは、区民の方から求められ期待の大きかった、ワクチン接種の円滑で着実な実施です。

具体的には、5月初旬から、高齢者施設入所者への出前型の「巡回接種」、その後は、個別接種を行う自治体も多い中、効率性を第一に考え、区有施設や関係機関による「集団接種」を基本に行いました。また、接種予約の集中による混乱を避けるため、LINEチャットボットの活用や年代別の段階的な接種券配布も効果を発揮しました。

また、働き世代をはじめ、若年層の感染が増えてきた状況から、50代以下の接種を加速化する対策を講じました。例えば、産婦人科医など、専門家のご協力をいただき、メッセージ動画をYouTubeで配信したことです。また、30代以下の希望者の方には、集団接種会場で、区の観光大使に就任した「リラックマ」のクリアファイルを贈呈しPRに努めました。

併せて、夜間接種や託児サービス付きの接種も開始するとともに、防災無線や地域を巡る「青パト」、安全安心メールなどを積極的に活用し、予約状況の情報を適宜行うなど、「打てる手はすべて打つ」との想いで力を尽くしてまいりました。

更に、コロナ禍においても区民サービスの維持・継続を図るため、教職員・保育士・区の窓口職員・清掃事務所職員などのエッセンシャルワーカーの方々の接種も、多くの方々のご協力のもと「職域接種」として早期に完了することができました。

まさに、全庁一丸となり、知恵を絞り、現場での創意工夫・改善を重ね、先手先手で施策を推進した結果、当初の予定を前倒し、昨年10月には対象者の8割を超える接種を完了いたしました。

昨年、8月、9月に起こった第5波では、その予兆のあった7月末から、残念なことではありましたが、自宅療養の方が出てしまうことを想定した準備に入りました。区民生活を支える最前線の千代田区として、地域の医師会や薬剤師会と綿密に連携し、自宅療養の方への電話やオンライン診療と往診、酸素濃縮器の処方、病院の

外来診療、処方薬の療養先への配布、抗体カクテル療法など、速やかで実効性のある医療体制を保健所が中心となり実現しました。

さて、千代田区でも、今年の正月にクラスターが発生しました。感染力の強い「オミクロン株」によるクラスターの発生は、どこにでも起こりうるものと痛感しました。この急拡大を見ても、第6波への対策は、まさに時間との戦いです。私たちのこれまでの知識と経験は、コロナとの戦いに勝つための力を授けてくれたと言えます。

第6波への対策として、まずは早期接種を鋭意進めています。現在は、高齢者の方々の3回目の接種が始まっています。1月6日に予約を開始し1月11日から集団接種という日程です。今回の前倒しが許された高齢者の方への3回目接種は、概ね1か月で終えたいと考えております。

早期接種と共に、早期発見・早期治療の方針も重要となります。東京都の無料PCR検査の活用や体調の異変を感じたら早めの診療を受け、早期発見に努めていただければ、抗体カクテル、経口治療薬（モルヌピラビル）による治療が可能になります。この経口治療薬は薬剤師会の方々との連携で、高齢者や基礎疾患をお持ちの方には、医師の指示により自宅などの療養先に届ける体制も整備しました。

「早期接種・早期発見・早期治療」こそが重症化と病床ひっ迫を防ぎ、区民の命と健康を守ることに直結します。この3点を重症化防止のカギとして、これからも先手の対策を積極的に進めてまいります。

新型コロナ感染症対策を進めつつ、千代田区の「賑わい、活力、力強さ」を創り上げていくことも大変重要です。

私には、社会・経済の閉塞感を打破し、未来に向けて明るさや期待を抱いていける、希望に満ちあふれ、安心して暮らせる地域社会を実願する責務があります。夜間人口6万7千人、昼間人口85万人とも言われるこの千代田区を元気にするために、恵まれた千代田区の地域資源が大きな力を発揮するはずですよ。

徳川家康公入府以来、そして、明治からも積み重ねられてきた歴史・文化が千代田区にとって最大の魅力だと思っています。昨年、江戸城外郭の正門の歴史を継承する石橋の、国史跡「常磐橋」の修復が完成しました。こうした素晴らしい財産を有効に活用していくことも重要だと思っています。

コロナ禍により千代田の賑わいや活力が急速に失われていく中、歴史や文化・芸術を基軸に、様々な資源を活用し、アフターコロナの時代の賑わいを創り上げていくために、区役所の仕事の縦割りと言われる部署、いわゆる縦軸の部分を横軸で動けるような組織体制の整備が必要です。産業、観光、芸術などが一つのストーリーとして展開できるような組織づくりにも力を入れていきたいと考えています。

千代田区は、様々な価値観の変化を受けとめ、「多様性と包摂」というダイバーシティとインクルーシブの理念のもと、コロナ禍においても持続可能な復興と回復、エコロジックな社会の実現に向けて、様々な施策を展開してまいります。さらに、居心地の良い、「人」中心の空間の創出に向け「ウォークアブルなまちづくり」の実現とともに、コミュニティー・文化・芸術・産業振興など多様な観点からダイナミズム（活力）を生みだせる区政の実現に全力で取り組んでまいります。引き続き、東京お茶の水ロータリークラブのメンバーの皆さまのご支援・ご協力をお願い申し上げます。

